

を伺った。

社会的価値

「従来の隠していた一つの重要なメッセージになり得るという。」

夕日を見て感動したこととをSNSで発信したとする。こうしたガイドブックなどに載っていない、そこにいる人

大で平たき

同で紹介され

「『地域創生』という『規模の経済』だ。大企業は全国規模で大量消費を促し、大量生産で市場を占有することが目的だった。

今は『果たしてそれでいいのかと問われている。利益弾力性を優先する『規模の経済』の結果として、『地域創生』という『規模の経済』だ。大企業は全国規模で大量消費を促し、大量生産で市場を占有することが目的だった。

今は『果たしてそれでいいのかと問われている。利益弾力性を優先する『規模の経済』の結果として、『地域創生』という『規模の経済』だ。大企業は全国規模で大量消費を促し、大量生産で市場を占有することが目的だった。

「規模の縮小」に代わって、若い世代たちを中心に「フフスタイル」として甦るようになったのが、持続可能なサステイナブルだ。これはなる一過性のトレンドではなく、生まれ頃から右肩上がりの持続成長や大きな成功体験を持たない世代にとっては、彼・彼女らとその未来の世代の環境や生活を

西村教授の数字たちから、
ちの就職活動における
企業選びも同じで、企
業規模や給与の高さで
はなく、中小企業であ
っても社会的な価値
ににつながる仕事をし
たいと希望する。価値観
の地殻変動が進じてい
たのだ。

これまでの「全国規模」
「大量生産」「画一
性」といふ規模の経済

は、この価値の地域差をしっかりと捉えて、地域づくりに観光振興などのマーケティングをしていく必要があると強調する。

■地域課題を再編集

日本各地にはそれぞれ、その地域に固有の資源があり、特徴的な文化や伝統がある。だが、そのまま単純に国内外へ発信・提供すればいいのではなく、マーケティング視点でターゲットとなる彼らの価値観と

明性を上げていくことで、社会の価値観を重視する若者たちとつながっていくこともできる」と西村教授は話す。さらには毎タイプの課題がプロトタイプとして他の地域へと響きを共有する仕組みで、この他にも同じように

しに知らない地域や企業内部の情報は、暗黙知^①とされるが、SNSの多数のユーザーに向かつてこれが、形式知^②に変化すると、式知に愛着が外へ外へにじみ出し、結果地域・企業とユーザー間の相互作用によって「ノベージ」が生まれ得くのだ。

西村教授自身は、阪神・淡路大震災を経験し、神戸市東灘区の商店街の地方創主として、どこにも携わってきた地域課題に共感す

文化面

[com/](http://www.com/)

[創生マーケティング」が南海日日新聞
konan-u.ac.jp\)](http://konan-u.ac.jp)

暗黙知

- 主観的な知
- 経験知
- 同時的な知
- アナログ的な知

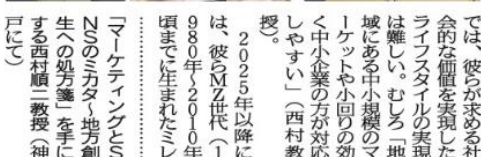
SNS

変換

形式知

- 客観的な知
- 理性知
- 順序的な知
- デジタル的な知

変換



化や歴史に基づいて、各地域の文
明を研究し、その特色や個性を掘り起
こし、再発見して可視
化し、再編集することとを
が欠かさない」と西村
教授は指摘する。

例えば、奄美ととし
たら、そのまま自然の
豊かさや文化発信す
るだけではなく、「豊
重な動植物たちが絶
滅の危機に瀕してい
る協力してくさい」
人口減で人手が足り
なくなっているのだ
とみて、なんとかし
ていってほしいとい
った。見守る地域
のネガティブ面も、マ

に、海で足をとることも

いする人々のつながりがある地域固有の貴重な資源に変わっていく。くろ西村教授は話す。「地域に見合った適正な規模の中で、持続可能な形で活性化していくのが有する固有価値と独自性を着目、その価値を伝えていく」が、新しい時代の肝な事だと話した。

(デジタルマーケティングコンサルタント)

日：南海日日新聞 2024 年 1 月 24 日付
 日：南海日日新聞社 <https://www.nankainn.co.jp>

学部西村順二教授の研究テーマ「地域文化の継承と創造」
た | 大学総合 | ニュース | 甲南大学 (



出典：南海日日新聞 2024 年 1 月 24 日付 文化面

南海日日新聞社 <https://www.nankainn.com/>

[経営学部西村順二教授の研究テーマ「地域創生マーケティング」が南海日日新聞で紹介されました](#) | [大学総合](#) | [ニュース](#) | [甲南大学 \(konan-u.ac.jp\)](#)